

保育・教育者養成クラスにおける  
体育授業（運動遊び）受講生の意識・態度・自己効力感  
—運動好きの子どもを育てる指導者になるために—

永井純子<sup>1)</sup>・日朝史子<sup>2)</sup>

1) 福山平成大学福祉健康学部（こども学科）

2) 福山平成大学福祉健康学部（非常勤講師）

E-mail : najunko@heisei-u.ac.jp

【要旨】

保育園や幼稚園、小学校における体育指導は効率的に運動量を確保するとともに、子どもに体を動かす楽しさを味わわせ運動を好きにさせるなど、重要な役割を持っている。

しかし実際には、児童が楽しく運動するような指導がうまくできていない状況が見られる。運動はできると楽しくなり、できないと自分に自信がなくなったり、運動嫌いになったりしてしまう。幼少期に良い指導者に会えるか否かは、子どもたちの将来にわたって大きな影響を与える。

そこで、今回は、運動好きの子どもを育てる指導者になるために何が大切なのかを明らかにし、指導者養成の一助となることを目的としてアンケート調査を実施した。

KEY WORDS : 子ども、運動指導、運動の楽しさ

## I. 背景と目的

現代社会は科学技術の飛躍的な発展などにより生活が便利になった反面、子どもの遊ぶ空間、遊ぶ仲間、遊ぶ時間は減少し、子どもたちの発達過程においても様々な問題が生じている。具体的には発育期の全年齢にわたって、動作発達や運動能力の低下、小児肥満や姿勢異常の増加、及び身体の虚弱化に伴う気力の低下などが問題となっている<sup>1)</sup>。

文部科学省「平成27年度体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、昭和39年から昭和50年頃にかけては、向上傾向が顕著であるが、昭和50年頃から昭和60年頃までは停滞傾向にあり、昭和60年頃から現在まで15年以上にわたり低下傾向が続いている<sup>2) 3)</sup>。また、スポーツ・青少年局が策定した「幼児期における運動の意義」によると、幼児期においては、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなることが指摘されている<sup>4)</sup>。

文部科学省は、学校における運動指導の問題に言及し、「学校における運動指導は、子どもが体を動かす楽しさを味わせ、運動を好きにしたり、普段運動しない子どもに限られた時間で効率的に運動量を確保するなど、子どもの体力の向上に関して重要な意味を持っている。しかし、幼稚園においては、教員自身の外遊びの体験の不足等により、幼児が遊びながら楽しく運動するような指導がうまくできないなどの状況が見られる。また、小学校においては、専任の体育の教員が非常に少ないことや、例えば、年齢が高い教員の中には児童の発達段階に応じた体育の指導に困難を感じたり、高齢でなくとも、児童に体を動かす楽しさを感じさせることができる指導が必ずしも得意でない教員が存在する。」と学校における体育指導の課題を指摘している<sup>5)</sup>。

そこで、今回は保育者・教育者養成のための授業を受講した学生を対象にアンケート調査を実施し、運動好きの子どもを育てる指導者になるためには何が大切なのかを明らかにし、運動指導者養成の一助となることを目的とした。

## II. 対象と方法

平成29年4月～7月に、保育士、幼稚園教諭、小

学校教諭養成課程における資格・免許取得のための必修科目「体育実技」を受講した私立大学1年生男子7名、女子34名、合計46名を対象に自己記入式アンケート調査を実施した。授業内容は、ジャンケン遊び、ちからくらべ遊び、風船遊び、縄遊び、フープ遊び、新聞遊び、マット遊び、跳び箱遊び、鉄棒遊び、棒遊び、鬼遊び、組み合わせ遊び、運動会種目の中から、各自が担当する種目の模擬授業を計画・実施する。指導案の作成、遊具準備、人の配置・整列、準備運動、チーム分け等について事前打ち合わせを行い、模擬授業では笛の吹き方、説明の仕方、教師の立ち位置、人の動かし方、言葉かけ、遊具の配置、場所の使い方等について実践した。

調査項目は先行研究<sup>6~10)</sup>を参考にアンケート項目を作成し、好きな運動・嫌いな運動に関する質問13項目、運動遊びの指導に関する質問12項目、運動の楽しさに関する質問10項目、運動遊びに対する知識・意識・態度、行動に関する質問25項目について、調査・分析した。統計分析はCollege Analysis分析ソフトを用いた。

## III. 調査結果

### <単純集計結果>

#### 1. 運動する楽しさの体感

「運動をすることがとても楽しかった」は93%、「運動する心地よさをとても味わうことができた」は85%、「もっとたくさんやりたいと思った」は80%と、本授業受講後、多くの者が運動する楽しさを実感し、もっとやりたいと思っていることがわかった(図1)。

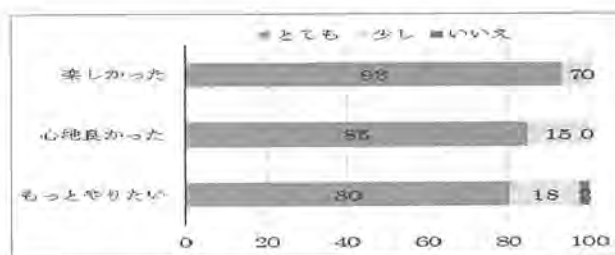


図1 運動する楽しさの実感 (%)

#### 2. 運動遊びの知識と指導者意識および自己効力感

運動遊びについて、「多くの運動遊びを知った」は93%、「教えることは楽しいと思った」は85%、「以前に比べて安全面への配慮ができるようになった」は85%と指導者として必要な知識や自信を持つことができた

と回答した。しかし、「幼児に運動遊びの指導ができると思う」と回答した者は61%、「笛で子どもを動かすことができると思う」と回答した者は48%と、指導技術面ではまだ、自信がない様子が窺えた（図2）。

※自己効力感：人が何らかの課題に直面した際、こうすればうまくいくはずだという期待（結果期待）に対して、自分はそれが実行できるという期待（効力期待）や自信のことを自己効力感という。心理学者のバンデュラが唱えた概念で、動機づけに大きな影響を及ぼす要因の1つと考えられている。

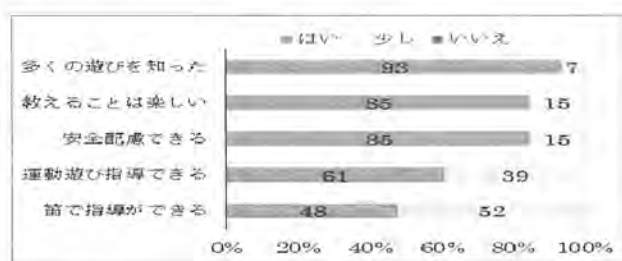


図2 指導者に必要な知識、技能の習得

### 3. 友達との協力と運動

「友達と一緒に運動することはとても楽しかった」と回答した者は93%、「運動することはとても人間形成に役立つ」と考える者は93%、「今まで話したことの無い友達と協力することができた」者は「とてもできた」が76%、「少しできた」が24%であった（図3）。

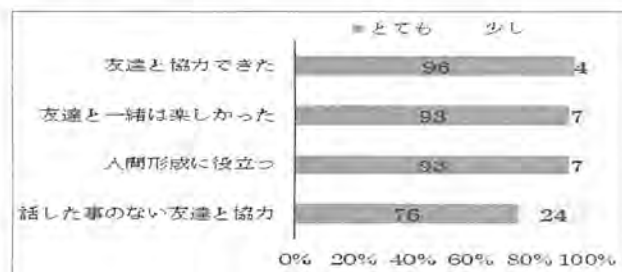


図3 友達との協力

### 4. 運動の好き嫌いと得意不得意

運動の好き嫌いについてみると、運動やスポーツをすることが「とても好き」は80%、「少し好き」は15%と、全体の95%の者が「運動やスポーツが好きである」と回答した。また、以前に比べて運動が「とても好きになった」は78%、「少し好きになった」は13%と、全体の91%の者が「以前に比べて運動が好きになった。」と回答した。また、運動やスポーツは50%が「とても得意」と回答した。一方、「放課後や休日にどこか

で運動している」は35%、「時々運動している」は41%で、実際に運動やスポーツを行っている者は30~40%前後であることが明らかになった（図4）。

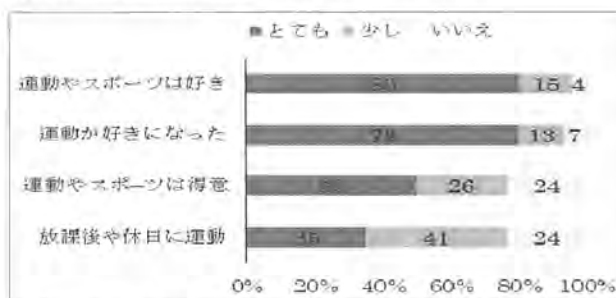


図4 運動の好き嫌い・得意不得意

男女別にみると、男子は運動が「とても好き」であり、「得意」な者が多かった。一方、女子は運動が「とても好き」な者は76%、運動やスポーツが「とても得意」な者は47%と男子に比べて少なかった。また、「放課後や休日に運動していますか」の質問には男子57%、女子32%が「はい」と回答した（図5）。

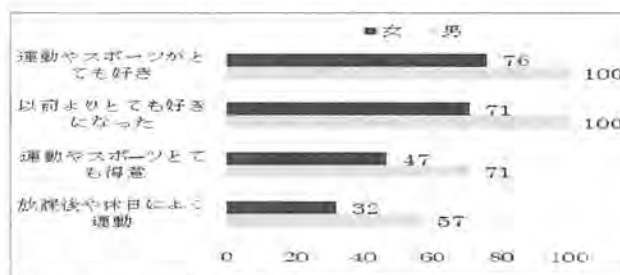


図5 男女別運動の好きと得意 (%)

### 5. 好きな運動遊びと嫌いな運動遊び

好きな運動遊びについてみると、じゃんけん遊び74%、風船遊び61%、運動会種目61%、鬼遊び57%の順に多く、手ぶらの遊びや簡単な遊具を使った遊びなど、どこでも誰にでもできる遊びに人気があることがわかった（図6）。

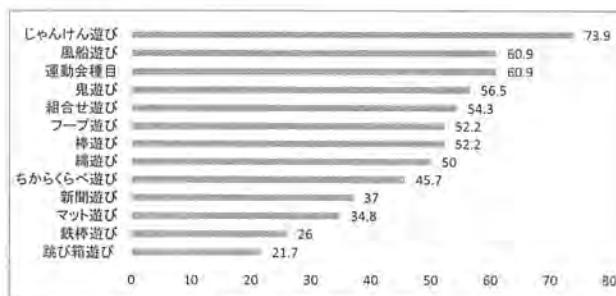


図6 好きな運動遊び (%)

一方、嫌いな遊びについてみると、跳び箱遊び44%、鉄棒遊び37%、マット遊び37%の順に「嫌い」と回答した者が多く、特に器械運動用具を使用した遊びに人気がないことが明らかになった(図7)。

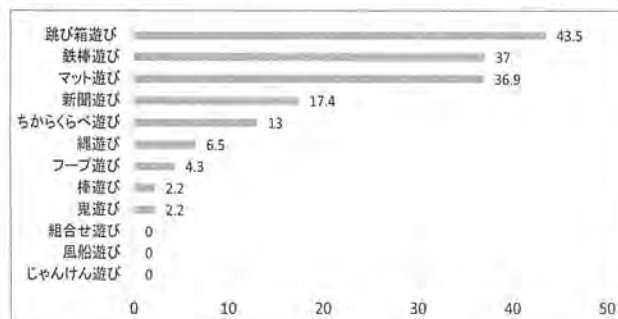


図7 嫌いな運動遊び (%)

### 6. 運動への意識・行動および指導案の作成

「幼児期の運動はとても大切」と思っている者は98%、「満足できる運動遊びができた」は78%、「運動は人の幸せにとってもつながる」は78%、「指導案が作成できるようになった」は57%であった(図8)。

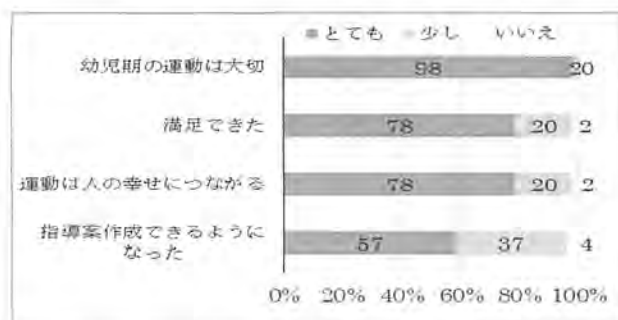


図8 運動への意識および自己効力感

### 7. 自己肯定感と自分の性格

「自分のことが好きである」と回答した者は72%、一方、「いいえ」と回答した者が28%であることがわかった。また、「自分は外向的である」と考えている者は74%、「そうでない」と考えている者は24%であることがわかった(図9)。

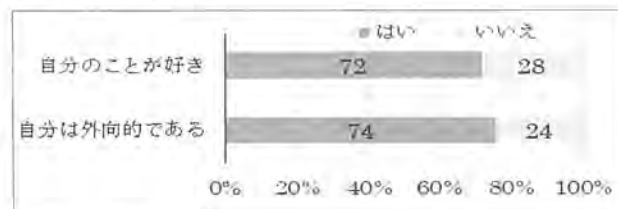


図9 自分への意識

### 8. 健康・安全への意識態度・行動

「危険予測・安全管理が大切」と「健康づくりに運動が大切」については96%の者が「とても大切」と回答した。しかし、健康行動の指標である朝食摂取については、「朝食毎日」が63%とやや低い傾向がみられた(図10)。

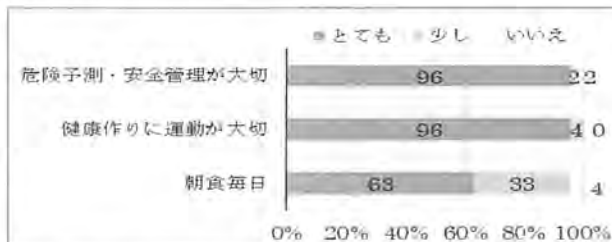


図10 健康・安全への意識態度・行動

### 9. 運動遊びの指導をする際に難しいこと

運動遊びの指導をする際に難しいことは、①指導案の作成67%、②説明の仕方63%、③人の動かし方57%、④言葉かけ50%、⑤教師の立ち位置48%の順に多いことがわかった(図11)。

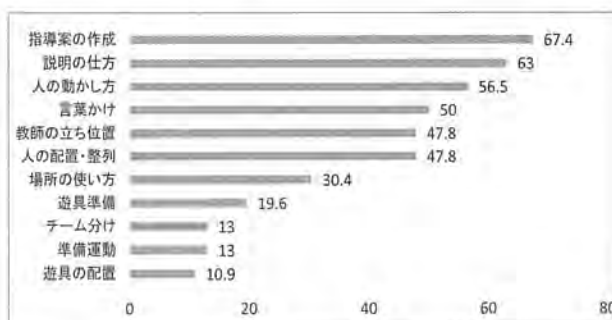


図11 運動遊びの指導をする際に難しいこと (%)

### 10. 運動の楽しさはどこにあるのか

運動の楽しさは、①仲間との交流67%、②競争63%、③集団活動52%、④勝利50%、⑤挑戦48%の順に多いことがわかった(図12)。

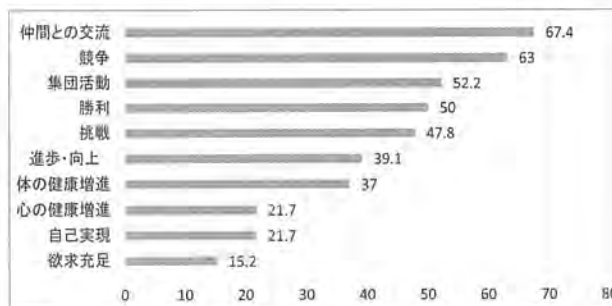


図12 運動の楽しさはどこにあるのか (%)

	楽しさ	心地よさ	もっとやりたい	遊ぶ種類	指導できる	笛で指導	安全配慮	教える楽しさ	友達と一緒に	友達と協力	初めての友達	人間形成	以前より好き	運動好き	運動得意	放課後運動	外向的	幼児期の運動	運動と幸せ	自己肯定感	満足できた	指導案作成	毎日朝食	運動と健康	危険予測	計
楽しさ	***	**						***		**			*												*	6
心地よさ	***	***								**			**	*					***							6
もっとやりたい	**	***								**			***	**				***	***			***			**	12
遊ぶ種類																									*	1
指導できる																										3
笛で指導							***																*			2
安全配慮								**				**														2
教える楽しさ	***							**				**		*							*					5
友達と一緒に																									*	1
友達と協力		**	**										*					*	*	*	*	*	*	*	*	8
初めての友達	**																								*	1
人間形成													*								*				*	5
以前より好き		**	***							*		*	**	**			*	*	***	**	**	**	**	*	***	11
運動好き	*	*	**	*				*		*		*	**	**			*	*	**	*	*	**	**	*	***	11
運動得意																									*	1
放課後運動															**											1
外向的													*	*				*	*	*	*	*	*	*	*	1
幼児期の運動			**							*		*	*	*	*		*	*	**	**	**	**	*	*	***	9
運動と幸せ		***	***							*		***	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	***	10
自己肯定感																									*	0
満足できた			**					*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	***	12
指導案作成			**	**	*				*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	***	11
毎日朝食																									*	1
運動と健康			**															*	*	*	*	*	*	*	*	4
危険予測	*		***	*				*	*	*	*	*	***	*	*		*	*	***	***	***	*	*	*	*	14
計	6	6	12	1	3	2	2	5	1	8	1	5	11	11	1	1	7	9	10	0	12	11	1	4	14	

図13 有意な関連が見られた項目の一覧表

<クロス分析結果>

有意な関連がみられた項目を一覧表に示した。

特に関連が強かったのは、「運動する楽しさ」、「もっとやりたい」、「教える楽しさ」、「友人との協力」、「運動と幸せ」の項目であった（図13）。

1. 「運動する楽しさ」との関連

「運動をすることは楽しかった」と有意な関連が見られたのは、①「心地よさ」、②「もっとやりたい」、③「教える楽しさ」、④「友人と協力」、⑤「運動好き」、⑥「危険予測・安全管理」の6項目である。特に「運動の楽しさ」と「心地よさ」、「教える楽しさ」との間に強い関連がみられ、運動の楽しさを味わった者は運動する心地よさを味わい、運動が好きになり、「教えることは楽しい」と思ったことがわかった（図14）。

2. 「もっとやりたい」との関連

「もっとやりたい」と有意な関連が見られたのは、①「運動の楽しさ」、②「心地よさ」、③「友達と協力」、④「以前より好き」、⑤「運動好き」、⑥「外向的」、⑦「幼児期の運動」、⑧「運動と幸せ」、⑨「満足できた」、⑩「指導案作成」、⑪「運動と健康」、⑫「危険予測・安全管理」の12項目である。特に「もっとやりたい」と強い関連がみられたのは、「心地よさ」、「以前より好き」、「外向的」、「幼児期の運動」、「運動と幸せ」、「満足できた」、「指導案作成」、「危険予測・安全管理」の8項目であった（図15）。

	とても	少し	いいえ	n=46	%	$\chi^2$
心地よさ						
味わった	39	0	0	39	85	
少し	4	3	0	7	15	***
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	43	3	0	46	100	
もっとやりたい						
もっと	36	0	0	36	80	
少し	6	2	0	8	18	**
いいえ	0	1	0	1	2	
合計	42	3	0	45	100	
教えることの楽しさ						
楽しい	39	0	0	39	85	
少し	4	3	0	7	15	***
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	43	3	0	46	100	
初めての友人と協力						
できた	35	0	0	35	76	
少し	8	3	0	11	24	**
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	43	3	0	46	100	
運動好き						
とても	36	1	0	37	80	
少し	7	0	0	7	15	*
いいえ	0	2	0	2	4	
合計	43	3	0	46	99	
危険予測						
とても	41	3	0	44	98	
少し	1	0	0	1	2	*
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	42	3	0	45	100	

\*:p<0.05 \*\*:p<0.01 \*\*\*:p<0.001

図14 「運動することが楽しい」との関連

	もっと	少し	いいえ	n=45	%	$\chi^2$
運動楽しい						
とても	36	6	0	42	93	
少し	0	2	1	3	7	**
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	36	8	1	45	100	
心地よさ						
とても	36	2	0	38	84	
少し	0	6	1	7	16	***
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	36	8	1	45	100	
友人と協力						
とても	36	6	1	43	96	
少し	0	2	0	2	4	**
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	36	8	1	45	100	
以前より好き						
とても	33	2	0	35	80	
少し	2	4	0	6	14	***
いいえ	0	2	1	3	7	
合計	35	8	1	44	100	
運動好き						
とても	32	4	0	36	80	
少し	4	3	0	7	16	**
いいえ	0	1	1	2	4	
合計	36	8	1	45	100	
外向的						
とても	28	5	0	33	75	
いいえ	8	2	1	11	25	***
合計	36	8	1	44	100	
幼児期の運動						
とても	36	7	1	44	98	
少し	0	1	0	1	2	***
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	36	8	1	45	100	
運動と幸せ						
とても	32	3	0	35	80	
少し	3	5	1	9	20	***
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	35	8	1	44	100	
満足できた						
とても	32	3	0	35	78	
少し	3	5	1	9	20	***
いいえ	1	0	0	1	2	
合計	36	8	1	45	100	
指導案作成						
指導案作成	22	3	0	25	57	
少し	12	4	1	17	39	***
いいえ	2	0	0	2	5	
合計	36	7	1	44	100	
運動と健康						
とても大切	35	7	1	43	96	**
少し	1	1	0	2	4	
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	36	8	1	45	100	
危険予測						
とても大切	36	6	1	43	98	
少し	0	1	0	1	2	***
いいえ	0	0	0	0	0	
合計	36	7	1	44	100	

\*:p<0.05 \*\*：p<0.01 \*\*\*:p<0.001

図15 「もっとやりたい」との関連

### 3. 「教える楽しさ」との関連

「教えることは楽しい」と有意な関連が見られたの

は、①「運動の楽しさを味わった」、②「運動は人間形成に役立つ」、③「運動やスポーツをすることは好き」、④「満足できる運動遊びができた」、⑤「安全配慮ができるようになった」の5項目である(図13)。

### 4. 「友達との協力」との関連

「友達と協力して運動することができた」と有意な関連が見られたのは、①「心地よさを味わった」、②「もっとやりたい」、③「以前より好きになった」、④「幼児期の運動は大切」、⑤「運動は幸せにつながる」、⑥「満足できた」、⑦「指導案作成できた」、⑧「危険予測・安全管理が大切」の8項目に有意な関連がみられた(図13)。

### 5. 「運動と幸せ」との関連

「運動は人の幸せにつながると思う」と有意な関連が見られたのは、①「心地よさを味わった」、②「もっとやりたい」、③「友達と協力して運動できた」、④「以前より好きになった」、⑤「運動することが好き」、⑥「外向的」、⑦「幼児期の運動が大切」、⑧「満足できる運動遊びができた」、⑨「指導案が作成できるようになった」、⑩「危険予測・安全管理が大切」の10項目で、特に「心地よさ」、「もっとやりたい」、「以前より好き」、「危険予測・安全管理」との間に強い関連がみられた(図13)。

## IV. 考察

### 1. 運動の楽しさを伝える

運動指導者として最も大切なことは、子ども達に「運動する楽しさ」を伝えることであると考えられる。運動する楽しさを伝えるためには、指導者自身が運動に関する知識と経験を多く持ち、「運動することは楽しい」と心から感じる必要がある。今回の調査では、「運動することが楽しい」と実感した者は、「もっとやりたい」と運動に対する意欲を高め、「この楽しさを子どもたちに伝えたい」という思いを持ち、「教えることは楽しい」という態度につながった。従って、指導者自身が「運動する楽しさ」を実感し、その楽しさを子どもたちに伝えることが運動好きの子どもを育てるために最も重要な要件であると考えられる。また、「運動する楽しさはどこにあると思うか」という問いに対して、「仲間との交流」が最も多かった。次いで競争、集団活動、勝利、挑戦の順に多いことから、授業立案において、このような要素を取り入れることが運動好きの子どもを育てる授業になると考える。

## 2. 友達と協力する楽しさ

運動遊びは、これまで話したことのない友達と話したり、協力して作業をしたりすることが多い。苦手だと思っていた人が実はとても楽しい人だったとわかるのも普段の生活では経験できない運動遊びの収穫かも知れない。運動する楽しさの一因は、友達と一緒に活動する喜び、勝敗を共にして喜びや悔しさを共感し、協力して問題解決に取り組むなど、友達と一緒に運動することに魅力があると考えられる。

## 3. 「好きな遊び」と「嫌いな遊び」

好きな遊びは、じゃんけん遊びや風船遊び、鬼遊びなど、どこでも誰でもすぐにできる手ぶらの遊びに人気が集まった。一方、嫌いな遊びで上位を占めたのは跳び箱遊び、鉄棒遊び、マット遊びなど器械運動用具を用いた遊びである。実はこれらの運動遊びは成功感や達成感を味わえるのにとっても有効な遊びである。特に幼少期にこれらの遊びを体験し、成功体験を積み重ねることで自己効力感（自信）を培うことができ、自己肯定感の形成につながる<sup>6)</sup>。

しかし、これらの遊びは、他の遊びに比べて、落下やその他のリスクが高く、指導が難しい。従って、できない者はできないまま通り過ぎ、運動嫌いや運動の得意・不得意に拍車をかけたのではないと思われる。高学年になると恐怖心が強くなり、幼少期に比べて何倍もの努力・練習が必要となる。たかが運動遊び、されど運動遊び。幼少期の指導はその後の人生にも影響を与えることから、すべての者が成功体験を積み重ねることができる指導技術が求められる。

## 4. 幼児期の運動指導

幼児運動指針には、遊びとしての運動は、大人が一方的に幼児にさせるのではなく、幼児が自分たちの興味や関心に基づいて考え工夫し挑戦できるような指導が求められている。また、幼児期は特定の運動やスポーツのみを続けるよりも、多様な運動刺激を与えて体内の様々な神経回路を複雑に張り巡らせていくこと、興味を持った遊びに熱中して取り組むことが運動機能の発達や活動意欲の促進につながると考えられている<sup>4)</sup>。

指導にあたっては、個人差が大きいので、一人ひとりの発達に応じた援助をすること、友達と一緒に楽しく遊ぶ中で多様な動きを経験できるよう、幼児が自発的に体を動かしたくなる環境の構成を工夫すること、幼児の動きに合わせて保育者が必要に応じて手を添えたり見守ったりして安全を確保するとともに、固定遊具や用具など

の安全な使い方や、周辺の状況に気づかせるなど、安全に対する配慮をすることが求められている<sup>4)</sup>。

今回、運動遊びの指導をする際に、指導案の作成が難しいと思った者が多かったが、実際の指導場面において必要な事柄、例えば、集団に対して行う遊びの内容やルールの説明、速やかに移動および整列させるなど人の動かし方、言葉かけ、教師の立ち位置などで戸惑う場面も多々見られ、現場経験を積みながら学ぶことが有効と考えられる。また、模擬授業では、指導案の作成および授業をすることが精一杯で、運動遊びについての豊富な知識を持つ、安全面への配慮ができる、笛で子どもを動かすことができるなどについては、まだまだ自信がない様子が窺え、運動遊びに必要な知識や指導技術をしっかり身につけることが、運動好きの子どもを育てる指導者になるために重要である<sup>7)</sup>と考える。

## 5. 本研究の結果と課題

本研究の結果から、運動好きの子どもを育てる指導者になるためには、指導者自身が「運動することは楽しい、気持ちいい。」と感じることが何より大切である<sup>8)</sup>と考える。しかし、今回の楽しさは授業での運動遊びの体験であり、真の運動の楽しさを味わったとは言えない。運動の楽しさの中には、友達と協力することやゲームの楽しさだけでなく、苦しい練習を乗り越え、目標達成する喜びや楽しさもあり、もっと奥深いものである。

運動指導は一步間違ると、運動に消極的な態度を持つ子ども、いわゆる運動嫌い、体育嫌いを養成してしまう。運動嫌い、体育嫌いの要因としては、教師の指導の仕方、教師の人間性、体育授業における苦痛経験などが挙げられており、教師自身の課題も大きい<sup>7)</sup>。

今後、保育園や幼稚園、小学校などで、子どもの運動指導にかかわろうとする者は、自らが積極的に運動を楽しむ意識・態度・行動を培うとともに、運動の楽しさはどこにあるのか、なぜ、運動嫌いになるのかなど、子どもの気持ちを理解した指導の仕方を日々工夫・改善し、運動好きの子どもを育てる指導者になってほしいと期待する。

## V. まとめ

1. 「運動することがとても楽しかった」は93%、「運動する心地よさをとても味わった」は85%の者が回答し、「運動の楽しさ」と「心地よさ」、「教える楽しさ」、「運動好き」との間に特に強い関連がみられた ( $p < 0.001$ )。

2. 「友達と一緒に運動することはとても楽しかった」は93%、「今まで話したことのない友達とともに協力できた」は76%の者が回答し、「友人と協力」と「心地よさ」、「もっとやりたい」との間に強い関連がみられた ( $p < 0.01$ )。
3. 「運動やスポーツが好きである」と95%の者が回答したが、「放課後や休日にどこかで運動している者」は男子57%、女子32%だった。
4. 最も好きな遊びは「じゃんけん遊び」、最も嫌いな遊びは「跳び箱」、器械運動用具を用いた遊びに人気がないことがわかった。
5. 幼児期の運動は大切であり、「運動は健康づくりや人の幸せにつながる」と考えていることがわかった。
6. 自分のことが好きな者は72%、自分は外向的であると思っている者は74%であることがわかった。
7. 運動遊びの指導をする際に難しいことは、指導案の作成、説明の仕方、人の動かし方、言葉かけ、教師の立ち位置、配置・整列等であることがわかった。
8. 運動の楽しさは、仲間との交流、競争、集団活動、勝利、挑戦の順にあると考えていることがわかった。

#### 【参考・引用文献】

- 1) 日本学術会議、健康・生活科学委員会、健康・スポーツ科学分科会：「子どもを元気にする運動・スポーツの訂正実施のための基本方針」、平成23年8月16日
- 2) 文部科学省：平成27年度体力・運動能力調査
- 3) 文部科学省・厚生労働省：平成27年版子供・若者白書（内閣府）
- 4) スポーツ・青少年局幼児期運動指針策定委員会：「幼児期における運動の意義」、平成24年3月
- 5) 文部科学省：「子どもの体力の低下の原因」、(2)子どもを取り巻く環境の問題
- 6) 吉川麻衣・山谷幸司・笹生心太：「運動嫌い」「体育嫌い」の実態と発生要因に関する研究—小学生・中学生・高校生における「運動嫌い」と「体育嫌い」の関連性に着目して—、仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集Vol.13、2012.3、pp110
- 7) 神奈川県立体育センター指導研究部スポーツ科学研究室：平成19年度県立体育センター研究報告書、「学校体育に関する児童生徒の意識調査」～小学生・中学生・高校生の意識～、2008年
- 8) 熊谷浩明、池田拓人：小学校教師の体育好き・体育嫌い—子どもを体育嫌いにさせる教師行動との関連性—、和歌山大学教育学部実践総合センター紀要、No.23、2013
- 9) 梅垣浩二・小野伸一郎・田中美奈子：体育授業改善のためのアンケート調査について、舞鶴高専紀要、2003.3
- 10) 五代孝輔：「より体育好きな児童を育てる体育学習の創造—体育を苦手とする児童に焦点を当てて—、鹿児島県総合教育センター平成26年度長期研修報告書
- 11) Bandura, A. : Self-Efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. 1977



# Towards Good Leadership In Bringing Up Children To Enjoy Exercise

Junko NAGAI<sup>1)</sup>, Fumiko HIASA<sup>2)</sup>

1) Department of Childhood Education Faculty of Welfare and Health Science

2) Faculty of Welfare and Health Science (Time Lecture)

Fukuyama Heisei University

## Abstract

Physical education leaders of nursery, kindergarten, and elementary school have an important role to play such as, to maintain the efficient amount of exercise, have children experience the joy of physical activities, and motivate children to love exercise. However, this role is not properly being implemented and in many cases, many children at school do not enjoy physical activities, they lose their confidence, and eventually hate physical activities. Whether or not they have good PE teachers at this early stage of life would have a tremendous impact on their future. Therefore, we conducted a questionnaire survey among college students taking PE classes to find out what they think are the factors involved in becoming good PE leaders who would guide children to love physical education.

KEY WORDS : Children, Teaching Exercise, Fun of Exercise